

名古屋ライトハウス

アイのかけはし

第14号 平成25年7月

発行責任者

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

理事長 本間 英典

〒466-0855

名古屋市昭和区川名本町1-2

TEL 052-757-3522

FAX 052-757-3533



理事長あいさつ

新年度を迎え、障害者自立支援法に代わる障害者総合支援法、また障害者優先調達推進法が施行されました。特に後者は、就労支援事業が基幹事業である名古屋ライトハウスにとって、利用者への安定的な仕事の提供・工賃の支給にとって絶好の機会と捉え、事業所同士が連携し前へと進んで行かなくてはなりません。

また、先ごろ障害者差別解消法が国会で成立しました。施行は3年後の平成28年と少し先にはなりますが、今後国による啓発などが行われていく上で、社会福祉施設として役立てることもあるだろうと考えております。

このような変化の中、当法人では前年度に引き続き5箇所の障害者相談支援事業の推進ならびに基幹型相談支援事業再編への積極的な取り組みを行い、地域社会の福祉ニーズに着実に応えていく使命を果たしていきたいと考えております。

今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

理事長 本間 英典

Vol.
14

理事長あいさつ..... 1

平成24年度 事業報告 2～3

平成25年度 事業計画 4～5

助成事業に関する報告..... 5

各施設の近況..... 6～12

表紙写真

かんせい工房・至純の鐘

平成24年度 事業報告

I 本部

本年度4月からの介護報酬・障害福祉サービス報酬の改定は、当法人においては特に従来型の介護老人福祉施設において減収の影響が大きく、施設の老朽化による突発的な修繕案件や冬季の利用者の体調不良頻発と相まって、更に厳しい施設経営を余儀なくされているところである。

障害福祉サービスにおいては、報酬改定によるマイナスの影響はさほどでもなく、これまでの実績評価による加算や利用者の増員もあり、おおむね好調であった。一方、障害者自立支援法の改正により相談機能の充実が図られ、当法人においても各施設に相談支援事業5事業所を開設し、合わせて6事業所となった。制度開始直後の手探り状態の中、僅かな人員にて次々と飛び込む問い合わせや依頼への対応に苦慮する場面が多々見受けられ、制度の浸透はさることながら、相談支援専門員の幅広い見識と判断力を総合的に高めていける育成環境づくりが新たな課題となった。

安定的な経営基盤の強化を柱のひとつとし、平成25年度から施行となる給与制度の改定を実施した。等級制度のステップの増加・資格手当の創設などで各階層にて次なる目標を手の届くものとし、人材育成の土台の一助とする。引き続き、各職種・等級における成長ステップを明確にし、評価制度の改正へと繋げていく。

II 光和寮 拠点

本年度においても、各事業のサービス向上と実績向上を図ってきた。特にガイドネットあいさぽーとにおける稼働時間のアップを推し進め、また、生活介護及びクリエイト川名の稼働率の向上に努めてきた。10月から実験的に始めた一部利用者の生産活動を伴う生活介護も多くの利用者に利用していただき、生活訓練の一部になっている。さらに就労移行支援事業における就職率向上と職場定着率を上げる事を進めてきた。

4月から始めた相談支援事業も今期後半から多くの相談を受け付け、障害福祉サービス利用計画作り等において地域に向けた幅広い窓口に育ち始めている。

光和寮全体としてのサービス向上に努める事で、地域における必要な資源として確立される事を目標としてきた。制度が刻一刻と変化する中で、柔軟に対応し地域や養護学校との交流を進め、広く障害者福祉に関する情報発信にも努めてきた。

ご利用いただく利用者及び地域にお住まいの障害者にとってきめ細かいサービスを提供し、さらに障害者福祉業界における基幹施設となれるよう努めていく。

III 明和寮 拠点

本年度より明和寮拠点は、相談支援事業の追加および全面福祉ホーム化（施設入所支援事業の転換）をした事業構成となった。

本年度は「3か年計画」の一年目として拠点の組織力強化を図るため組織を再編しスタートしたが、充分とはいえず次年度の課題となっている。

各事業の業績については年間を通じ大きな問題はなかったが、放課後等デイサービスや生活介護事業で稼働率の上昇に伴い、新たに活動スペース確保が問題となっている。

また、拠点の施設整備に関しては、計画していた作業棟の空調設備の更新や福祉ホームの居室改修を順次実施したが、作業棟トイレの改修や福祉ホームの内壁面タイルの剥がれ補修等予期せぬ修繕が多かった。老朽化に対しできるだけ計画的に改修を進めていく予定である。

IV 港ワークキャンパス 拠点

本年度のA型事業は、余分な支出を「下げる」、「しない」を合言葉に収支バランスを整えることと金属工場の体質を強

化することを目標とし走り続けた一年であった。主に、材料素材の変更、職員配置の転換による効率化、従業員増による福祉収入のアップと生産体制の強化を行い、「減らすべきモノ」と「増やすべきモノ」の両側面からのアプローチにより前年度以上に充実した事業内容であったといえる。また、B型事業においても職員のスキルアップや生産の効率化等、数字の結果以上の充実感があった。4月から新しく運営を開始した相談支援事業については、港区障害者地域生活支援センターと連携し手探り状態ではじめたものの実績等、良好な結果となっており次年度以降にも在宅利用者からの期待も高まっているところである。

V 緑風 拠点

平成23年度に名古屋市から事業を引き継ぎ、利用者8名でスタートした緑風だが、積極的な広報活動が効果を上げて新規利用者も増え、本年度末には利用者数が30名となった。利用者の増加と共に収支も安定しつつあり、この一年で今後のステップアップに向けた基礎固めができたと考えている。

3月には法人内で6番目となる指定相談支援事業所を開設した。（りよくふう障害者相談センター）

VI 戸田川グリーンヴィレッジ

開設2年目、理学療法士の採用と相談員の増員によりショートステイの拡充に努め支援体制の強化を図り、栄養マネジメント計画・リハビリ計画を始め、新たな加算を取得した。途中1名の退所（肺炎による死亡）があり、稼働率平均は入所が96.5%、生活介護が111.4%、短期入所が72.1%で推移し、入院する利用者は少なく、比較的安定した1年だった。

4月初めには職員総数50名だったが、3月末には56名となり、年間を通して職員の調整力やニーズ把握力向上が課題で、研修や事象の振り返りを通して職員育成、多職種協働による支援に努めた。外部・内部講師による障害理解の学習会も開催した。

利用者の意見を吸い上げる第一歩として満足度調査・嗜好調査に加えて新しく各部署職員から定期的に情報提供する場として10月から月1回昼の例会を開始した。

また、防災訓練等を年3回行ったが、津波対策は課題として残っている。

地域ニーズを鑑みて4月より開始した相談支援事業については、職員の努力によって地域相談という公益的役割を果たしたといえる。

VII 名古屋盲人情報文化センター

平成24年度から26年度の「3か年事業計画」の1年目として、方向性の確立を目指した1年であった。事業の活性化については、点字出版部に録音担当を配置し、音声版選挙公報や声の広報などや区版等の準備を進めた。施設整備に関しては、非常時館内放送設備と連動させた電話機の取替を行った。

VIII 瀬古マザー園

介護報酬改定に伴う減収幅は、新たな加算の取得を目指した業務体制の見直しや、新規利用者の獲得に向けた対策など収入増加への取り組みにより小幅に止まっていたが、介護老人福祉施設において12月頃からの発熱と肺炎による入院者の続出が響き、大幅な減収を余儀なくされるに至った。次年度は、本年度の経験を活かした安定的な事業運営を目指す。

人材育成面については、マザー園は従前から研修制度が整っており、内容的にも年々充実してきている。現在、ケア体制の遅れが指摘されている認知症高齢者に対する研修の充実に取り組んでおり、さらに研修内容を見直して次年度へと繋げていく。

施設環境整備の面では、本年度は利用者家族の要望に沿った談話室の新設、亡くなられた利用者の遺志を受け継いだミニメントの設置工事などを実施した。

また、本年度は給湯管の破損により建物地下への漏水事故

名古屋ライトハウス「情報公開」

平成25年度 事業計画

I. 法人本部

前年度4月より実施された介護報酬・障害福祉サービス等報酬の改定は、特に高齢福祉事業において減収の影響が大きく、施設の老朽による修繕案件の増加と相まって、厳しい施設経営を余儀なくされているところである。

本年度の開始と共に、これまでの障害者自立支援法に代わる「障害者総合支援法」が施行され、また就労支援事業にとって大きな契機となる「障害者優先調達推進法」が施行される。前年度各拠点にて開設した相談支援事業を窓口とする障害福祉施設の利用者支援のフローの構築、また各拠点の就労支援事業は、利用者の目標工賃達成のため、それぞれ連携を図りながら行政機関等からの受注に結びつけていかなくてはならない。本年度も大きな変化と動きの中で進んでいくものと思われる。

こうした状況を踏まえ、法人としては、事業計画・予算の推進・管理、情報収集・発信を中心とした本部機能の更なる強化により、各事業の合理化を図りながら安定的な経営に導く。

II. 光和寮 拠点

これからの光和寮においては、3か年事業計画を基に活動する。まずは『健全な経営と共生・共働する光和寮』をスローガンに以下の視点で進める。

- ①各事業の収支安定と改善がなされていること。
(収支の黒字化をする事で健全な経営と安定した体制づくりをする)
- ②職員の教育体制が整っていること。
(様々な教育体制を構築する事で、継続した体制づくりをする)
- ③利用者・職員が地域の中で共に働いていること。
(障害者の働く場を追求する)
- ④地域との結びつきが強固なものとなっていること。
(地域との結びつきを実感し、地域の一員となる)

具体的には、就労継続支援事業においてA型利用者数対B型利用者数で、全国平均1:6.7に対し愛知県は1:2.5と多くの利用者がNPO、株式会社を含むA型事業所に就職し、B型利用者が集まりにくくなっている。B型利用者確保により一層注力すると共に、既存B型事業の部分的なA型への移行の足掛かりを作りたい。また、「工賃向上3か年計画」の2年目を迎えるにあたり、B型の売り上げの大きなウエイトを占める印刷部門の仕事量、内容の充実を図り、利用者工賃の向上に努める。また全体の利用者確保の観点から介護、日中活動支援事業の拡充が施設運営基盤の安定に欠かせない要素となっている。

III. 明和寮 拠点

3か年計画の2年目として、スローガン『利用者を「集める」のではなく、利用者が「集まる」拠点』を目指して、各事業の機能がより発揮できるよう組織力の強化と人材育成を図る。

また、施設整備に関しては「美観の回復」をテーマに、外壁・浴室を中心に順次取り組む。

IV. 港ワークキャンパス 拠点

依然として就労支援事業の中核となる製缶業界においては、建築業の低迷から厳しい状況が続いているところである。しかし、経済復興の結果を出してくれるであろう国内での政権交代による動向を認識しながら本年度の施設方針としては前向きな「挑戦の年」とし、各事業の更なる発展を目指し利用者の更なる満足度の向上を図る。具体的な事業計画は以下の通りである。

(1) 事業の活性化について

売上アップに伴う製造設備の新規導入及び作業場の拡張と新しい就労場（従たる事業所）の創設により事業拡大を目指すと共に利用者数の増員を目標30名と掲げ、就労・福祉の両側面からの増収を目指した事業展開を図る。

(2) 地域（社会）への貢献について

見学や実習生の受入れを100%実施する他、来客者に配慮した施設風土を構築し、できる限り地域と密着する機会を多くする。また、前年度より定期的に実施している養護学校・訓練校等の新卒者の採用を継続していき、地域・関係機関との連携の強化を図る。

(3) 職員教育について

- ①役職者講師による勉強会（階層別）
- ②各部署担当者による施設内勉強会（経理、生活、営業、製造、施設長）
- ③共通したビジネス書の熟読（施設の取り組みを見出す）
- ④各研修会の積極的参加

(4) その他の視点

就労事業の活性化による作業延長や工賃支給等、従業員・利用者の収入アップを目指す。

V. 緑風 拠点

開設後2年が経過した。利用者数も開設時の8名から2月末には27名となり、施設内にも活気が溢れている。本年度は20名から40名への定員変更を目標に、地域のニーズや利用者の望む生活スタイルの実現に向けてサービス内容を拡充する。また、本年度に使用可能となる敷地（約600㎡）について方向性をまとめ、新規作業導入に向けた取り組みを進める。

VI. 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

開設後2年が経過し、3年目に入る。前年度は相談支援事業の開設と短期入所利用者の段階的拡大に取り組んだ。本年度はすべての事業の再点検・再構築と更に必要な仕組みやマニュアル作りの年とする。

現状の課題を踏まえて組織の再編、権限移譲と役割・機能の見直しを実施し、施設の意義と目的について職員の認識の統一を図る。

個人個人の生活スタイルを大切にしながら、真の利用者ニーズ把握とそれに基づいたサービス等利用計画や個別支援計画作成とモニタリング体制の強化、利用者・職員間で起こる諸問題や事故等も日々の関わりの中から変化に気づき、未然に防ぐことのできる人材を増やす。

障害者虐待防止法の施行から半年、利用者の人権尊重の視点を持ち、共に働く職員を信頼し、職員間で連携しながらお互いが成長し合える組織づくりに努め、障害理解を深めるための外部講師を招いての研修等も3か月に1回程度実施する。

「身体障害者施設職員研究大会2013」の研究発表の準備をリハビリ介護部門で着実に進める。

VII. 名古屋盲人情報文化センター

3か年事業計画の2年目として、事業の活性化、地域社会への貢献、職員教育、施設整備等について実際に取り組む年度とする。特に、職員教育においては自主研修制度を取り入れ視覚障害者情報提供施設の職員としての力量形成に努める。施設整備に関してはトイレの改修に向けて準備を進める。

VIII. 瀬古マザー園 拠点

介護報酬の改定から2年目に入り、本年度は経営環境がさらに厳しくなるものと予想されるため、各事業においては新たな加算の取得を目指した取り組みや、新規利用者の獲得に向けた対策など、収入増加への取り組みを積極的に推進する。また、肺炎患者が続出した前年度の反省から、本年度は感染症予防対策を早めに講じるとともに、医療機関との連携をさらに強化し、利用者がより安心安全に過ごせる環境づくりを目指す。

人材育成の面では、従前から職場研修の定期開催や外部研修への参加、グループ制の活発化などに取り組んできたところであり、内容的にも年々充実してきている。

さらに本年度は、年々増加していく認知症高齢者へのケア体制の充実を図るため、認知症高齢者に対する基本的な理解や専門的知識の修得を目的とした研修にも力を入れる。

施設整備については、老朽化した給湯管の取替工事及び受水槽の更新工事を順次計画的に実施するとともに、現在環境整備プロジェクトとして進めている園内の環境整備にも引き続き取り組む。

平成25年度 資金収支予算書（法人合計）

（自）平成25年4月1日 （至）平成26年3月31日 単位：円

勘定科目	合 計	社会福祉事業会計	就労支援事業会計	公益事業会計	基金特別会計	共済等特別会計
就労支援事業活動による収支						
収入						
就労移行事業収入	1,120,000	0	1,120,000	0	0	0
就労継続事業収入	734,579,000	0	734,579,000	0	0	0
就労支援事業収入計(1)	735,699,000	0	735,699,000	0	0	0
支出						
就労移行事業支出	970,000	0	970,000	0	0	0
就労継続事業支出	727,393,000	0	727,393,000	0	0	0
就労支援事業支出計(2)	728,363,000	0	728,363,000	0	0	0
就労支援事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	7,336,000	0	7,336,000	0	0	0
福祉事業活動による収支						
収入						
介護保険収入	371,300,000	363,800,000	0	7,500,000	0	0
自立支援費収入	1,096,385,000	517,477,000	578,908,000	0	0	0
補助事業等収入	153,492,000	139,867,000	1,625,000	0	0	12,000,000
利用料収入	380,000	180,000	0	200,000	0	0
措置費収入	161,000,000	161,000,000	0	0	0	0
私的契約利用料収入	80,000	10,000	70,000	0	0	0
視覚障害者情報提供収入	81,528,000	81,528,000	0	0	0	0
経常経費補助金収入	234,274,300	209,242,300	6,317,000	18,715,000	0	0
寄附金収入	1,886,000	1,692,000	194,000	0	0	0
雑収入	42,067,000	13,417,000	28,550,000	100,000	0	0
借入金利息補助金収入	6,189,000	4,102,000	2,087,000	0	0	0
受取利息配当金収入	12,405,000	328,000	63,000	14,000	7,000,000	5,000,000
会計単位間繰入金収入	38,090,000	26,700,000	240,000	11,150,000	0	0
経理区分間繰入金収入	29,000,000	29,000,000	0	0	0	0
福祉事業活動収入計(4)	2,228,076,300	1,548,343,300	618,054,000	37,679,000	7,000,000	17,000,000
支出						
人件費支出	1,424,984,000	999,182,000	385,605,000	29,897,000	0	10,000,000
事務費支出	260,841,000	178,584,000	72,658,000	6,748,000	0	2,851,000
事業費支出	271,184,000	221,779,000	47,905,000	0	0	1,500,000
借入金利息支出	8,301,800	5,223,800	3,078,000	0	0	0
会計単位間繰入金支出	38,090,000	11,390,000	26,700,000	0	0	0
経理区分間繰入金支出	29,000,000	29,000,000	0	0	0	0
福祉事業活動支出計(5)	2,032,400,800	1,445,458,800	535,946,000	36,645,000	0	14,351,000
福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	195,675,500	102,884,500	82,108,000	1,034,000	7,000,000	2,649,000
施設整備等による収支						
収入						
施設整備等補助金収入	0	0	0	0	0	0
施設整備等寄附金収入	0	0	0	0	0	0
固定資産売却収入	0	0	0	0	0	0
施設整備等収入計(7)	0	0	0	0	0	0
支出						
固定資産取得支出	70,976,000	42,900,000	28,076,000	0	0	0
施設整備等支出計(8)	70,976,000	42,900,000	28,076,000	0	0	0
施設整備等収支差額(9)=(7)-(8)	-70,976,000	-42,900,000	-28,076,000	0	0	0
財務活動による収支						
収入						
借入金収入	0	0	0	0	0	0
投資有価証券売却収入	0	0	0	0	0	0
借入金元金償還補助金収入	26,660,000	12,807,000	13,853,000	0	0	0
積立預金取崩収入	37,500,000	32,000,000	5,500,000	0	0	0
その他の収入	223,000	223,000	0	0	0	0
財務活動収入計(10)	64,383,000	45,030,000	19,353,000	0	0	0
支出						
借入金元金償還支出	45,846,000	23,172,000	22,674,000	0	0	0
投資有価証券取得支出	0	0	0	0	0	0
積立預金積立支出	900,000	0	0	900,000	0	0
その他の支出	315,000	315,000	0	0	0	0
流動資産評価減等による資金減少額等	130,000	130,000	0	0	0	0
財務活動支出計(11)	47,191,000	23,617,000	22,674,000	900,000	0	0
財務活動収支差額(12)=(10)-(11)	17,192,000	21,413,000	-3,321,000	-900,000	0	0
予備費(13)	0	0	0	0	0	0
当期資金収支差額(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)	149,227,500	81,397,500	58,047,000	134,000	7,000,000	2,649,000
前期末支払資金残高(15)	1,655,717,783	613,452,311	459,403,031	7,569,959	292,425,409	282,867,073
当期末支払資金残高(16)=(14)+(15)	1,804,945,283	694,849,811	517,450,031	7,703,959	299,425,409	285,516,073

助成事業に関する報告

平成24年度 立川福祉基金様をはじめとする助成事業により、各施設において下記の設備・機器を整備いたしました。ここに改めて御礼とご報告を申し上げます。

- 愛知県 基盤整備事業 光和寮 就労継続支援 B型 設備整備 (オンデマンド印刷機)
- 愛知県 基盤整備事業 明和寮 就労継続支援 B型 設備整備 (印刷機器 3点)
- 愛知県 基盤整備事業 港ワークキャンパス 就労継続支援B型 設備整備 (ハイパフォーマンス インクジェットプリンター・真空包装機)

事業総額 4,972,000円
助成金額 4,972,000円

事業総額 4,693,500円
助成金額 4,693,000円

事業総額 3,540,075円
助成金額 3,276,000円

- 立川福祉基金 名古屋盲人情報文化センター (カップリングカッター)

事業総額 535,500円
助成金額 500,000円



- 愛知県 基盤整備事業 港ワークキャンパス 就労継続支援B型 施設整備 (かんせい工房改修工事)
事業総額 18,814,300円
助成金額 15,056,000円
※港ワークキャンパス記事参照



光 和 寮

SLに乗って

さて、一段落したので、私は利用者さんにインタビューを行った。すると「蒸気機関車に乗るのは30年ぶり、いや、それ以上になるかな」と、にこやかな笑いがこぼれる。

「昔のことを思い出しました。でも、客車は冷房もよく効いているし、こんなに乗り心地はよくなかったよ」

確かに、客車は新しいもので冷房がよく効いており、シートも新しく気持ちがいい。あまりに気持ちがいいので蒸気機関車であることを忘れてしまう。このSLを写真に収めようと、レール沿いの空き地や建物、木の上やフェンスの上に鉄道ファンがいっぱひしめき合って、こっちに手を振っている。いや、SLに手を振っているのだが、スター気分で手を振り返す。

客室内が騒がしくなった。今回は運転手としてマイクロバスを運転して、私たちの降車駅で待機してくれる黒田係長と石井係長が、我々の乗るSLを外から記念撮影をするため、先回りして田んぼの真ん中に立ってこちらに手を振っている。サングラスを

かけて手を振るさまは、さながら映画の1場面のような。だから、利用者・職員とも女性陣が立ち上がってSLの窓から一生懸命手を振っている。

SLが我々の降車駅に着いた。ホームには鉄道ファンがこれまたひしめき合って、到着したSLと記念撮影をしようとしている。私も記念撮影をするために到着した反対側のホームに走った。ひしめき合っている中で手を振ってはくれるが、頭がちょっと見えるだけで「だめだ、こりゃ」。改めてホームから少し離れて、みんなで「はい、チーズ」。

初夏のよい思い出とともに青春時代がよみがえった1日だった。



明 和 寮

第14回「ライトハウス福祉まつり開催」

地域開放・地域連携を目的に、今年で14回目を数える「ライトハウス福祉まつり」を4月27日（土）に開催しました。近隣を中心に700名を超える方にお越しいただき、企業・施設合わせて25団体様にご協力いただきました。今回は「未来に向けたメッセージ！輝け子どもたち！」をテーマに福祉施設として、未来を担う子どもたちに施設を知ってもらいたい、福祉に興味を持ってもらいたいと願い、子ども向けのイベントも開催し、多くの子どもたちとふれあいをもつことができ、貴重な地域交流の場となりました。

今後もこのようなイベントを実施し、少しでも地域の方々や企業・団体・施設様にご理解の上、ご支援いただけるよう施設全体で一層努力していきたいと思います。

最後にこの場をお借りし、参加していただいた多くの方々にご協力いただいた皆さまに御礼申し上げます。



「ぷちとまと 一泊旅行」

昨年11月、生活介護（重度障害者デイサービス）「ぷちとまと」は、開設5周年を記念して大阪へ事業所初挑戦となる一泊旅行に出掛けました。一日目は海遊館。薄暗い館内で最初はちょっととまどったものの、ふてぶてしくも可愛いアザラシや生き生き泳ぐ魚たちのお出迎えに気分はまるで浦島太郎。圧巻は、やはりジンベイザメでした。二日目はユニバーサルスタジオジャパン。あいにくの雨にもかかわら

ずたくさんの人出で、アトラクションもレストランも長蛇の列。びしょ濡れになりながらも、みんな笑顔で見たことや体験を話してくれました。普段とは違う活動だった為、楽しい事だけでなく色々なハプニングもありましたが、参加された方々の心遣いや職員の頑張りで、また一つ思い出を作ることができました。



港ワークキャンパス

就労継続支援B型 かんせい工房開所

平成25年4月1日、港ワークキャンパス「KAN食品開発センター（B型就労継続支援事業）」の分場として、あおなみ線荒子川公園駅から徒歩5分の場所に「かんせい工房」を開所致しました。

利用者7名、職員2名、パートタイマー1名、合わせて10名での船出です。

「KAN食品開発センター（B型就労継続支援事業）」は平成20年4月に港ワークキャンパス所属のB型施設となって以来、定員20名で『パンですよ』の製造一本で突き進んで参りましたが、今回の開所に伴い定員も40名に広がりました。

仕事内容も『パンですよ』のラベル巻きをはじめ、「お菓子の梱包」や「絵の封入」、「壁紙の端材を使用したエコバッグ製造」等多岐に渡り、本来優秀であるはず(?)の港ワークキャンパス営業チームも、(恐らく)持てる力のすべてを注ぎ、今後益々広がっていくことでしょう。また、駅から近いといった利便性もあり、障がいを持った方の「仕事をした」といった希望や夢を叶える一助となる場所になりましょう。

今回の分場開所もそうですが、港ワークキャンパスは就労継続支援事業に特化された施設です。しかし、事業において売上げのみに固執することなく、メーカーとして「お客様に喜んでいただけるものをつくる」。この基本に忠実に事業を進めていくこと



が、働いている方々の賃金アップにも繋がると信じています。また、金属工場やKAN食品開発センターを支えていただいているお客様同士を繋ぐようなことにも挑戦していきます。さらに、「かんせい工房」は住宅街の中に立地し、老人介護施設や学童保育も近隣に位置しています。そういった地域住民の皆様との交流イベントなども検討しています。(例えばフリーマーケット開催など)

あらゆる可能性を秘めた施設、それが港ワークキャンパスです。もちろん「かんせい工房」も含めた港ワークキャンパスとして。

今回、開所式は執り行いませんでしたが、担当職員による決意表明を行い、全職員が気持ちをひとつに致しましたこと、最後に報告させていただきます。



緑 風

●指定相談支援事業の開設

平成25年3月に名古屋ライトハウスとして6ヶ所目の相談支援事業所を開設しました。その名も「りょくふう障害者相談センター」です。

「りょくふう」と平仮名にすることで親しみやすさを感じていただければ…という想いがあったのですが、さてどうでしょうか？

千種区初の指定相談支援事業ということもあり多方面からたくさんの問い合わせをいただき、担当者は嬉しい悲鳴を上げています。今後ともよろしくお願いたします。

●緑風の余暇活動

緑風でのレクリエーションは、利用者が交代で企画係を務めて、複数の活動を用意し自由参加としています。もちろん「参加しない」という選択もあり、その方は就労活動を行います。

この仕組みにしてから利用者の声が反映しやすくなり、レク活動がより柔軟性のあるものとなりました。その他、全員参加の活動としては四季折々の「行事」を開催しています。



1月行事 <初詣>



4月行事 <花見会>



3月レク <卓球>



5月レク <ボウリング>

戸田川グリーンヴィレッジ

～みんな頑張ってます～

施設長 上田 千春

戸田川グリーンヴィレッジは開設して3年目の春を迎えました。南側の田んぼも水が張られ、夏の匂いが近づいてきています。居室周辺の木々や花や草たちも元気に育っています。先日もボランティアさんと草取りをしたところです。施設に花を飾ると利用者さんが「これは何？」と聞いて下さり、喫茶ではそこからまた話題が広がっていきます。

当施設では今年は事業の再点検と再構築を行い、権限移譲と役割分担をしていくという事業計画を立てました。権限を移譲する、役割を職員・パートに分担していくということはリーダーたちの後進に対する信頼と育成能力の賜物と自負しております。

役割を振られた職員たちは活き活きとたまに失敗したりしながら、先輩や利用者さんの後方支援を受けて頑張っています。会議が活発に開かれたり、職員が利用者さんの要望に頭を悩ませたりいろんな風景が見られます。すべての課題は組織力で解決していきたいと考えます。

利用者・職員・ご家族・ボランティアさんで力を合わせて戸田川のこれからを一緒に作っていけると確信しています。今後ともご指導よろしくお願いします。

○居酒屋

平成25年4月27日夕方6時30分より「あるだけ居酒屋・春～空～」が開かれました。会場は、“soracafe”。出たいとおっしゃる利用者さんが多く、ひまわり食堂の一角も利用します。つまみ、飲み物が「あるだけ」の居酒屋です。

今回のおつまみは、おでんをはじめとした一品料理。もちろん手作りです。前日から、事務所にてコトコト煮込んだおでん。漂う“居酒屋のにおい”が、翌日を心待ちにさせました。飲み物は、ビールやワイン、日本酒、焼酎など、なかなか本格的です。

“みんなで、ちょっと一杯”が、なかなかできにくい施設生活の中、“職員さんは、いつもみんな忙しそう。なかなかゆっくり話ができない”の声もいただきました。この「居酒屋」は、ちょっと一杯引っかけながら、利用者、職員が入り交じって飲み食いし、楽しい時間を過ごせるひと時です。



○チューリップ

利用者さんのご家族より、チューリップの球根を沢山頂いたので、球根を干し春を待ちました。暖かくなりそうな頃、利用者さんも一緒に、一つ一つ植えました。

土がとても固く耕すのが大変でしたが、ご家族さんが金のスコップで一生懸命ならしてくれ、職員やサマボラの中学生も一緒に大仕事。その甲斐あってか、春にはちゃんと芽が出て、期待通り色とりどりのチューリップが沢山咲きました。

チューリップはとても賢く、寒い日には花を閉じ、暖かい日は大きく開いて、ユラユラと利用者・ご家族・職員一同の心を温めてくれました。また来年も咲いてくれそうです。



名古屋盲人情報文化センター

今年1月19日、名古屋盲人情報文化センターの前身「あけの星声の図書館」の創設者である故・岩山光男館長の胸像がロビーに設置されました。篤志家の方のご寄付により「いつか、館長の胸像を置きたい」という思いが実り去年の夏、胸像製作がスタートしました。

誰に作ってもらおうか、と製作者の選定から始まりました。「ただ鎮座しているだけの胸像じゃなく、触って、そして聞いて館長を偲ぶことができなければ」が大前提でしたので、迷うことなく柳澤飛鳥氏（男性）にお願いをしました。柳澤氏は「さわる絵画」づくりに邁進されている埼玉県所沢市在住の彫刻家です。視覚障害者が触覚で美術鑑賞を楽しめるようにダ・ヴィンチの「モナリザ」やムンクの「叫び」など数々の名画を立体表現され、作品集作りや展示会を精力的にされています。

館長が写る数枚の写真と共に、その特徴を「ほとんどない首、優しい目、かなり上を向いた鼻、笑っ

ていない時は下唇が少し突出した感じになります。肩はしっかり厚みがあります」と伝えました。たったこ



れだけの情報で、そっくりさんに仕上がるのだろうか…と、不安と期待感で完成を待ちました。

そして無事、館長の命日である1月16日を三日過ぎた19日に除幕式典を執り行いました。利用者そしてボランティア、OB職員も集い、午後の「偲ぶ会」では館長の昔話で大盛り上がり、館長を知らない職員も思いを馳せることができましたはずです。

センターの正面入口を入り、誘導ブロックに導かれて進むと、岩山館長が皆様をお待ちしています。台座正面には「岩山光男」の浮き出し漢字。その右横のボタンを押せば、懐かしいガラガラ声で「目が見えないことは不便で不自由だけど不幸ではない…」と語ってくれます。ご存命中は恐れ多くてお顔を触ることなどできませんでしたが、今では触り放題で館長と対峙できます。

ご来館の際はぜひ、お触り寄ってください。



瀬古マザー園

完成！至純の鐘（しじゅんのかね）

平成25年5月7日、本間理事長をお迎えして、瀬古マザー園食堂南側庭園にて「至純の鐘」お披露目式典が執り行われました。この鐘は、去る平成24年1月にご逝去された辻昌子氏のご遺志により、記念碑（モニュメント）として設置させていただいたものです。

辻昌子さんは昭和40年29歳で名古屋ライトハウス（現在の光和寮）へ入所、74歳で瀬古第二マザー園を退所されるまで45年余り、人生の半分以上を名古屋ライトハウスとともに歩んでこられました。また音楽などのクラブ活動、俳句や短歌の創作活動にも勤しまれ数々の賞を受けるなど活躍されました。

「至純の鐘」は高さ4m、銀色の支柱が頂上でアーチを描き、上部には直径約35cmの真鍮製のスィングベルが取り付けられ、あわせて辻さんの短歌の代表作を刻んだプレート（写真）も設置されました。鐘の名である「至純」は、亡き辻さんのお人柄や生き

方を思い浮かべた時、“まったく混じり気のない、この上なく純粋な様子”が偲ばれ、名付けられました。

また、鐘の隣には、記念樹としてハート形の葉をつける「桂の木」が植えられ、周囲には新たに「レイズドベッド」と呼ばれる腰高の花壇もつくられました。6月には種から育てた野菜などの苗を植え込み、夏には花を咲かせ、秋にかけて実をつけ収穫できるのを、いまから楽しみにしているところです。このような機会を得て、あらためて辻さんの姿を偲ぶとともに、この場所が利用者の皆さんに散歩や園芸を楽しむ場として、また憩いの場として喜ばれ、この鐘とその澄んだ音色、素敵な花壇が辻さん同様に長く愛されるよう、よりよい施設づくりに取り組んでいかなければならないと改めて感じております。お立ち寄りの際は鐘の姿やその音色、周りの花壇の花や野菜が育っている様子をお楽しみいただければ幸いです。

